



令和5年度学校だより 甲府市立南西中学校

銀杏 (いちょう) 第14号(最終号) 令和6年3月22日(金)発行

教育指標 「日々に 新たに」 ●学校教育目標 「たくましい心と体をもち 豊かに学び合う生徒の育成」

文責：校長 井上 有史

令和5年度を終えて

3月11日(月)に80名の卒業生を送り出し、いよいよ来週25日(月)の修了式をもって、本年度の教育活動がすべて終了いたします。生徒達の頑張っている様子や、校長室から感じたことを発信させていただいた学校だより「銀杏」も本号が本年度最終号となります。今年1年間、保護者の皆様や地域の皆様の心強いお力添えのおかげで、無事本年度が終えられますこと、心より感謝申し上げます。また、何より生徒達の頑張りにとっても元気をもらった1年間でありました。

前月号でもご紹介しましたが、昭和35年に開校した本校は今年で創立64年、卒業生は本年度を含めて18,573名を数えます。私は26代目の校長として着任させていただきました。校長室には、歴代校長先生方の顔写真が掲示されています。そのお写真を眺めながら、長い歴史の中で歴代の校長先生方がその時々々の教育課題にどう向き合ってきたのか思いを馳せることがあります。きっとどの時代のどの校長先生も、生徒にとって何が一番大切なのかを最優先に考え、学校経営をされていたのだと推察します。自分も歴代の校長先生方の意志をしっかり受け継ぎ、子ども第一主義の責任ある学校経営を行わなければと、その都度気が引き締まる思いでいました。

今年1年間を振り返ると、どれだけの教育効果が上げられたのか、生徒にとって居心地のよい学校にすることが出来たのか、また、地域や保護者も皆様にとって信頼される学校運営ができたのか、正直なところまだまだ解決しなければならない課題は山積しているように感じています。ただ、素直な生徒達、熱心な先生方、そしてとても協力的な地域や保護者の皆様に囲まれ、私自身にとってはとても充実した1年間だったと思っています。心より感謝を申し上げるとともに、来年度以降も変わらないご協力、ご支援をお願いいたします。

感謝の気持ち

南西中の広い敷地は、技能員の小林岩雄さんにより年間を通してとてもきれいに管理されています。真夏の猛暑日にも、真冬の凍てつく日にも、子どもたちにとって快適で安心な環境づくりにご尽力いただきました。先日も、大雪が降った日の早朝正門周辺の雪かきを率先して行っていただきました。その献身的な活動に心から感謝です。

また、普段は保護者の方と接する機会は少ないかもしれませんが、校内教育支援センター(ほっとルーム)を担当し、全校生徒の居場所づくりにご尽力いただいている松田智子先生、通級指導を通して、生徒の自立をサポートいただいている浅川公子先生、古屋和歌子先生、松田香織先生、望月友紀先生、島山真弓先生、特別支援学級での学習活動をご支援いただいている小澤明美先生、授業準備や学習支援にご尽力いただいている今福恵美先生、給食配膳を担当し安全な給食を提供していただいている高野美恵先生、図書室を運営し読書の魅力を発信し続けていただいている土橋ゆみ先生、学校事務を担当していただいている深澤圭子先生。他にも、初任者指導を担当されている須田浩孝先生、スクールカウンセラーの鶴田理恵先生等、授業を担当している職員以外にも、たくさんのスタッフの方に支えられ学校が運営されています。もう5年以上勤務されているスタッフもいれば、今年からの方もいらっしゃいますが、今年1年「チーム南西中」としてそれぞれが子ども達のために、時には職域を超えて全力で職務に当たっていただきました。それぞれの活動に感謝の気持ちで一杯です。この場を借りて、紹介させていただきました。

来年度は、アフターコロナ、ウイズコロナの観点から学校教育はさらに新しいステージを迎えます。また、GIGAスクール構想の質的な向上、部活動の地域移行、教員の働き方改革等、解決しなければならない課題は山積みですが、スタッフ一同これまで同様子ども達のために全力で取り組む所存でございます。



Song for you ～くちびるに歌を持って！～

1学期、卒業生により復活した「Song for you」の取組ですが、3学期に入り1年生、2年生にそのバトンが引き継がれました。この取組は、お昼休みに中庭で各クラスが思い思いの楽曲に取り組みパフォーマンスを披露するものです。中には振り付けがあったり、動きがあったりして観衆を魅了しました。発表以外の生徒達は、間近で観ている生徒もいれば、2階の窓から観戦している生徒もいて、とても和やかな雰囲気でした。特に、最終回は、1、2年生が合同で「キセキ」という楽曲を披露し、後半には3年生も加わり、全校生徒がそろっての大合唱となりました。中には、肩を組み身体を揺すらせているグループもあり大盛り上がりでした。事前に打ち合わせがあったわけではない様子でしたが、自然発生的に全生徒が集結したことは、観ていた先生方も大いに感動していました。

卒業式「はなむけの言葉」の中で、私から生徒達に「心に太陽を持って、くちびるに歌を持って」という内容の詩を贈りました。この詩には、原作者(ドイツの詩人ツェーザル・フライシュレン)の次のようなエピソードが伝えられています。

『舞台はイギリス、ある濃霧の夜船が衝突、沈没します。漂流する乗客たち、絶望の中で救助を待つ男の耳に、きれいな歌声が聞こえます。それは、材木につかまっている婦人たちの中の若い女性。嘆きや愚痴では、救助のボートを呼び寄せられないとみんな気づき、それぞれが歌い始めます。やがて救助のボートがやってきます。男は、「お嬢さん、あなたの歌が皆を救ってくれました、ありがとう」とお礼を言う…』

どんな困難な場面でも、諦めず希望を持ち続けることの大切さが伝わってきます。実は私自身が中学校1年生だったとき、当時の担任の先生から贈られた詩でもあります。私が教員を志したきっかけとなった先生でした。今にして思えば、長い教員生活の中でいつも心の中にあつた言葉だったように感じています。そんな気持ちもあったためか、今年1年間明るく朗らかに歌っている生徒の姿からとても大きなパワーや勇気をいただきました。

バトンは卒業生から在校生に渡されました。来年度以降の、南西中学校の伝統と文化を今まで以上に発展させられるよう、「心に太陽を持ち、くちびるに歌を持ち」頑張っていって欲しいと思います。活躍を心から祈っています。

